

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域包括ケアを地域へ届けるために ～在宅クリニックでのプロデューサー活動～
演者名	広部志行
所属	オレンジホームケアクリニック・プロデューサー

目的

オレンジホームケアクリニック（以下、当院）では、開設当初より、プロデューサーという職種を配置し、地域多職種や一般市民に対して在宅医療や地域医療について理解を拡げるために、「わかりやすく・楽しく」発信する業務を担当している。

2012 年度の在宅医療連携拠点事業でも、プロデューサーが中心となり、地域の非医療者との連携を試みた。また、その後もまちづくりに関わる人たちや、デザイナー・建築家といった専門職とも連携をとり続けている。

実践内容

例として、多職種連携研修や講演会など在宅医療を広める活動、地域のライフサイクルに着目した健康相談や認知症カフェなどの地域コミュニティにおけるフレキシブルな医療のあり方を模索する活動において、誰もが参加したい、参加してよかったと思える仕掛けとして、メディア的な演出を利用している。

実践効果

多職種連携研修は全国から研修依頼を受け、各地に当院のスタイルを利用した研修が広がりつつある。また認知症カフェ等はメディアや行政からの注目も大きく、また各方面から見学、開設支援の問い合わせも多く受けている。

まちづくり活動においては、地域コミュニティでの勉強会やイベントへの参加依頼も増加している。

考察

非医療者であるプロデューサーが、地域住民目線で、難しい表現になりがちな医療者のメッセージを、一般市民が受けとりやすい形で発信することで、地域住民や、医療介護職以外の専門職（商店街の方、デザイナー、飲食店、議員、などなど）との連携が濃くなった。

地域包括ケアにおいて、医療介護職だけでなく、地域住民や他業界のメンバーも一体となってシステムを構築する必要がある中で、当院でのプロデューサーのような、医療介護専門職と一般住民を繋ぐ役割が重要になると考えられた。